



まつざき真琴 県議会ニュース

日本共産党

2018年7月号

発行/日本共産党鹿児島県議団 〒890-8577鹿児島市鴨池新町10番1号 TEL/FAX099-286-3977
E-mail: m-matsuzaki0416@jcp-kagoshima.com ホームページ <http://jcp-kagoshima.com> (右QRコード)



6月議会は、県政をめぐる様々な課題が明らかになりました。その内容をお知らせし、みなさんにご意見を伺いたいと思います。添付しておりますアンケートにぜひ、ご協力ください。

保安林指定の解除・伐採! まさか、 川内原発3号機増設準備?!



川内原発工事の様子



林地開発許可に抗議する申し入れ

川内原発の様子が一変しています。久見崎海岸の砂浜から川内原発の敷地を見ると、これまでは、林があり全く敷地内を見ることはできませんでした。それが、今は、林がなくなり敷地内が丸見えになっています。(上・左写真)

元々ここは、3号機増設予定地ですが、保安林があり、それを伐採しなければ3号機は作れません。その保安林の伐採を許可する権限は知事が持っています。

伊藤前知事時代、「私の在任中は、3号機増設に係る諸般の手続きを凍結する」と表明し、保安林の指定解除の許可を「凍結」していました。ところが、九州電力は、2016年の県知事選挙の

最中に、保安林の指定解除の申請を提出し、県は、昨年4月に解除の「予定告示」を行い、その結果保安林が伐採されました。

九州電力は「資機材の保管ヤード」のための造成としていますが、驚くことに、3号機増設の予定図面に示されているものと同様の場所に、同様の沈砂池が作られ、同様の盛土が行われています。

3つの市民団体は、県に申し入れを行い、三反園知事の3号機増設についての見解を質すとともに、伊藤前知事が行った川内原発3号機増設についての「同意」を撤回することを求めました。(上・右写真)

さらに税金投入! 果たして経済効果は?

人工島—マリンポートかごしまに 新たな岸壁整備

22万トン級のクルーズ船(世界に4隻)の 受け入れ可能な岸壁整備に総事業費89億円

人工島—マリンポートかごしまは、1999年12月に、「71億円の経済効果があり、県勢の浮揚発展に必要不可欠」として、多くの県民の反対を押し切って、強行されました。

その後の県知事選挙では、全ての候補者が人工島建設に「反対」「見直し」「凍結」と公約せざるをえない状況の中で、伊藤前知事は、「あり方検討委員会」で検討した結果、「防災拠点」として整備をすることとしました。

当時は、地震や桜島の噴火、豪雨などにより、大規模な災害が発生した場合には、災害直後の一時避難及び数週間の避難生活の場として利用するとしていました。

しかし、2011年の東北地方太平洋沖地震後は、対象災害が変わり、「火災や豪雨災害、桜島の噴火等の避難として利用可能」となっています。しかし、海に突き出た人工島で、安心して避難生活ができるでしょうか。

ここ数年、クルーズ船の入港が増えてきてきたことから、今年4月にこれまでの岸壁を16万トン級のクルーズ船に対応でき



るよう改修しました。ところが、今回、さらに世界最大の22万トン級(世界に4隻)のクルーズ船に対応できるような新たな岸壁を整備するための予算が組まれました。

現在でも、7~8時間の停泊時間の中で、経済効果は一部の地域に限られている、数十台のバスの往来が渋滞を招いている、天文館周辺にはバスを停車させるスペースがないなどの課題が明らかになっています。

三反園知事は、「16万トン級と22万トン級の大型クルーズ船が二隻同時に並んで接岸できる日本初のクルーズ専用ターミナルとなる」と言っていますが、もし、そうなれば、現在の課題は益々深刻になるのではないのでしょうか。

県民のいのちと暮らしを守る。県政めざって

いったい、いくらかかるの？

総合体育館・アリーナを建設—中央駅西口？

現在の県体育館が老朽化していることから、県総合体育館を整備する計画が進んできました。

伊藤前知事時代に、「検討委員会」を立ち上げ、県庁東側に武道館を含む県総合体育館を整備する方針が示されていましたが、突然、ドルフィンポート跡地への「スーパーアリーナ構想」が示され、知事のリコール運動にも発展したという経過をたどりしました。

三反園知事は、改めて「大規模スポーツ施設在り方検討委員会」を設置し、その結果「多目的に使えるアリーナ機能を有する総合体育館を整備する」提言が示されました。

今後、その建設場所や施設の内容・規模については今年度中に、「基本構想」を策定し、その中で明らかになる予定でしたが、今回の6

月議会において、知事は、建設予定地としてJR鹿児島中央駅西口の県工業試験場跡地が「最適」とであると表明しました。

しかし、駐車場の確保の問題、周辺道路の渋滞の問題、敷地が狭いことによる高層化で建設費が多額になることが予測される問題など、様々な課題があると思われます。

建設費が増大になることは、県の財政を圧迫するとともに、施設の使用料が高額になる恐れもあり、そうなれば、イベント等の入場料も高額となり、県民が利用しにくい施設となってしまいます。

県総合体育館は、県民の財産として、県民が気軽に有効活用できる施設であるべきだと考えます。

ぜひ、みなさんのご意見をお聞かせください。

県民の財産を民間企業に売り渡す？

鹿児島本港区エリアを民間で開発?!

鹿児島本港区は、鹿児島の海の玄関口として、桜島フェリーや離島のフェリーや高速船の発着所として、重要な役割を果たしている場所です。また、ウォーターフロントパークは、雄大な錦江湾と桜島を一望できる緑地空間として、県民・市民の憩いの場所となっています。

今、三反園知事は、このエリアを一体的に開発し、「来て見て感動するまちづくり」の観光の目玉スポットとして、国内外から観光客を呼び込むための拠点となるよう総合的に開発するために、民間からの提案を募集しています。その内容は、一切公表されないことになっています。

全体的な開発内容が決まれば、資金調達から、用地取得、施設建設、運営・管理まで、全てを民間企業に委ねる計画になっています。

県民の財産であり、暮らしにとって重要な空間が、民間の収益を上げる空間に変質してしまうのではないかと心配されます。

ぜひ、みなさんのご意見をお聞かせください。

鹿児島本港区エリア(下写真) 県HPより

鹿児島市水族館周辺～ウォーターフロントパーク～北ふ頭・南ふ頭～種子屋久高速船乗り場～ドルフィンポート敷地～住吉町15番街区～周辺の県営駐車場



大型開発よりも県民の暮らしと福祉を守れ!

国による社会保障費削減計画の中で、住民の医療や介護の負担増が続いています。今年4月からは、国民健康保険税の県単位化が始まり、今後、保険税の値上げや厳しい取り立てが心配されます。

「高すぎる国保税」を解決し、「払える国保税」にするためには、国庫負担を以前のように2分の1に引き上げることや、一般会計からの繰り入れを認める必要があります。そして、滞納があっても、保険

証は無条件に発行することが大切です。

また、子どもの医療費は、非課税世帯だけを「窓口負担ゼロ」にするのではなく、全ての子どもたちを対象に、窓口無料にすべきです。

大型開発優先ではなく、県民の暮らしと福祉最優先の県政の実現をめざしましょう。



「奄美大島上空での米軍機オスプレイの飛行訓練の中止を求める意見書」を提案

今、奄美大島上空では、米軍機オスプレイの低空飛行訓練が繰り返されており、住民は、不安な思いを募らせています。奄美市議会や大和村議会が、住民の思いに応え、全会一致で「奄美大島上空でのオスプレイの飛行訓練の中止を求める意見書」を採択しました。

共産党県議団と県民連合は、共同で、意見書案を提案し、県議会でも、奄美の住民のみなさんの思いに応え、県民の安心・安全を守るために力を尽くすべきと訴えました。

採決の結果、共産党、県民連合、無所属2人の賛成少数で、否決されました。

